

川崎で「おもてなし」

2018年7月末に、川崎市の外国人居住者は4万人を超え、観光客も年々増加しています。「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催される2年後に川崎市と羽田空港をつなぐ橋が完成すると、ますます多くの海外からの来客や住民も増えていくでしょう。そこで今回は、SIGNAL 編集ボランティアが実際に、外国人市民や観光客とともに市内の観光名所に出かけ、「おもてなし」について考えてみました。

「おもてなし」とは？

辞書によると、「おもてなし」の語源は、待遇、馳走、とりはからい、たしなみ、身のふるまい。そして、もう一つの語源は「表裏なし」。つまり、表裏のない心で相手をお迎えすること。この二つの意味をあわせたものが「おもてなし」という説もあります。相手の母文化、日本や川崎に関する知識、日本語のレベル、趣味嗜好などを「思って」「成す」＝「おもてなし」することで、相手に喜んでもらって自分もうれしくなる。そんな気持ちをもって、川崎に遊びに来る外国人観光客とも、市内で生活している外国人市民とも一緒に楽しく過ごせるといいですね。

川崎市伝統工芸館でおもてなし 藍染め体験～前田比呂志 フェルナンドさん（ブラジル）

川崎市伝統工芸館は、手軽に藍染めの体験ができる希少な施設。外国人観光客に人気のスポット生田緑地の日本民家園西門内にあります。この日は日系ブラジル人のフェルナンドさんと藍染めを楽しみました。



伝統工芸館は日本民家園の西門の中にあります。

日本は藍色、ブラジルは何色？

ジャパンブルーと称されるように藍色は日本人の心の色。2020年東京オリンピックのエンブレムも藍色ですね。その昔は町々に藍の染物屋さんがあったそうです。

フェルナンドさんによると、「じつは、ブラジルの国名も染色に由来しているんですよ。ブラジルには赤い染料になる木が自生していたのですが、ポルトガルでは高価な染料だったため、盛んに輸出されるようになり、ポルトガル語でこの木を指す『ブラジル』が国名になったそうです。」藍は日本の色。ブラジルの色は赤だったんですね！

「染物は初めてでしたが、楽しかったです。つい夢になって黙々と作業をしてしまいました。ぜひ家族と一緒にまた来たいと思います。」とフェルナンドさん。様々な絞り模様を施した素敵なハンカチができました！

外国人から見たおもてなしとは？

サッカーの試合の際、日本人サポーターが応援に使っていたブルーのポリ袋にゴミを入れて持ち帰る話はとても有名ですが、そうした心遣いそのものにおもてなしの心を感じます。おもてなしとは相手に楽しんでもらえるよう、思いやる気持ちですね。

取材を終えて

いにしへの日本にタイムスリップしたような空間で藍染めを体験できて楽しいひとときでした。外国の方をおもてなしする際、ついよく知っているところにご案内しがちですが、今回は私自身も未知の領域でワクワクしました。作品はお土産にもなり、ファミリーにもおすすめです。

どんな柄になるのかワクワク。楽しい絞りの作業。

ビー玉やフィルムの空ケースなどを使い、だれでも簡単に絞り模様ができるように工夫されています。その後、染色液につけて約1時間ほどでハンカチが完成します。説明等はすべて日本語ですが、外国人の体験者も多く、小学生でもできるとのこと。



ビー玉、お箸、洗濯バサミなどを使って絞りの模様を作ります。どんな模様になるのかな？



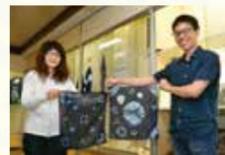
藍染めの液は発酵しているので、ぶくぶくと泡が立っています。これを藍の華とよぶそう。



藍液にハンカチを浸して3分間待ちます。



空気に触れさせるとみるみる藍色に！感動の瞬間。



約1時間後、見事に染まりました。フェルナンドさんの作品は芸術的です。

(取材・文：編集ボランティア 水野裕子、写真：撮影ボランティア 安田芳郎)

川崎市伝統工芸館では随時藍染の体験を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.nihonminkaen.jp/facility/dentou_kougeikan/

ラゾーナ川崎お買い物で、おもてなし ナツシャさん（タイ）、ウェイさん（台湾）、ユウさん（台湾）

日本語学校に通う留学生とJR川崎駅の時計台で待ち合わせをして、川崎ラゾーナを散策しました。日本に来て約1年の留学生さんたち、どんなお店がお気に入りなのでしょうか。



何でも揃う！百円均一ショップ

まずは、みんなが大好きな百円均一ショップに向かいました。このお店は留学生の母国タイ、台湾にも店舗があるのですが、現地通貨だと100円以上するので、お買い得感があるそう。母国のお母さんからのアドバイスで購入することもあります。見たことのある商品が並んでいると安心しますよね。



日用品や便利グッズが揃っていること、手にとって商品を確認できること、値段が均一であることが、外国人の皆さんが安心して楽しくお買い物できるポイントとのこと。最近では100円以外の商品も販売していますが、その場合は値段を大きく分かりやすく表示しており、混乱がありません。母国からのお友達の観光ルートにも必ず入る、必見スポットだそうです。

事前の情報収集が鍵？薬局めぐり

次に向かったのは薬局。留学生の皆さんの目にとまったのは「カプセル式洗剤」。今海外からの観光客にとっても人気で、皆さん買って行くそうです。薬局では、パッケージに「Shampoo」や「Body Soap」など英語表記が多く、海外の方もお買物がしやすいそうです。インターネットで有名なプロガーの紹介などをとって買い物リストを作って来日するのも一般的とのこと。



しかし、来日当初、友人のために頭痛薬を探すのは大変だったとの体験談も。そのときは英語と日本語を交えて店員さんに

相談したそうです。健康に関わることで困ったときに、言語の障壁なく気軽に相談できる場所があるといいですね。

わからない不安と楽しさ・わかる安心



生活には欠かせないスーパーでのお買い物。最初は、お肉の種類が多くて見分けがつかず困ったそうです。魚の種類が多さも、見ていて楽しい一方調理方法がわからず、なかなか購入には至らないそう。(私も同感です(笑)) 挑戦したいのはお漬物だそうです。どれがどんな味なのか想像がつかず、ウィンナーよりお漬物の試食がほしい！というコメントもありました。

最後に訪れたのは、留学生の母国でも有名なファストファッション店と生活雑貨店。両店の日本限定のデザインの商品は、お土産として喜ばれ、母国の家族からリクエストを受ける事もあるそうです。どちらも母国語の表記がなくても、値段・品物が分かりやすく、見ているだけでも楽しいため、安心してじっくりお買い物ができるそうです。

取材を終えて

日本に興味がある方にとっては「日本人の日常生活」も観光資源になったり、母国で慣れているお店に日本で出会えると新鮮さや安心を感じてもらえるのだと気づきました。留学生に「おもてなし」をする！と自分が思っている、逆に教えてもらう、こちらが学ぶこともたくさんありました。与えるだけじゃない、自分も学べるのが「おもてなし」だと目からうろこの体験でした。これからおもてなしの機会が増えるのが楽しみです。

(取材・文：編集ボランティア 志原 桃子、写真：協会交流事業課職員)

川崎市の観光案内

●川崎市観光案内所（年中無休）

住所：川崎市川崎駅駅前本町26番地1
アトレ川崎3階川崎駅北口通路
開設時間：平日 午前9時～午後8時
土日祝 午前9時～午後7時
多言語対応：英語、中国語は常駐。その他の言語（韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語）についても電話通訳で対応が可能



●川崎市国際交流センター1F・多言語情報コーナー

住所：川崎市中原区木月祇園町2番2号
開設時間：月～金 午前9時～午後9時
(年末年始、全館点検日は休館)
多言語対応：英語、中国語、韓国語・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語

●川崎市観光ガイドブック「川崎日和り」(日/英/中)

発行：川崎市経済労働局産業振興部観光プロモーション推進部
ホームページ版：<http://www.k-kankou.jp/>

●Travel Guidebook (英/中/韓国・朝鮮)

●Enjoy Kawasaki Station Area(英/中/タイ)



川崎市国際交流センター主催の「川崎おもてなし観光ボランティア通訳セミナー」では、川崎市を知り、川崎市を今よりもっと好きになり、多くの方に紹介するという事を目的のひとつとしています。今年も開催予定です。